



小松電機産業の主力製品のシートシャッター。国内生産シェアの55%を占める—島根県八雲村、本社工場

豊分のスペースの作業場だけが資産。資金回転の早い機械ポンプの修理業で事業資金を

ベンチャー企業の旗手 シートシャッター国内シェアは55%



小松 昭夫社長

高速で自動開閉するシートシャッター「門番」をヒットさせるなどベンチャー企業の旗手的な存在に成長した。昨年は、居ながらにして集落排水の処理施設の水質や運転状況を把握する自動制御・監視システム「ニューやくも水神」を開発。同社が力を注ぐ水質浄化のオリジナル製品として普及を図っている。

創業時は工具箱ひとつを頼りに始めた町工場だった。小松昭夫社長は農機メーカー、佐藤造機(現在の三菱農機)の中央研究所に勤務していたが、昭和四十六年に同社が会社更生法適用を受けたのを機に退職。二年間、大阪の商社で販売の修業を積み、四十八年に独立した。

独立当初は、十万円のは資金と五万円の中古車、十

巻き取り式に改良すると、利用者が急拡大。搬出入作業の多い工場や倉庫向けのヒット

ため、ポンプ販売へと手を広げていった。基礎固めのチャンスは、五十七年に開かれたくびき国体。集落単位の簡易水道に合う水道計装器の開発時期が国体の地元開催の準備期と重な

り、水道施設の整備に迫られていた島根県内の各市町村に受け入れられた。

企業名を全国に広めたのは、六十年に販売を始めた自動開閉シャッターの門番だった。ジャバラ式だった開閉を

商品となった。「改良への研究・調査を進めるなかで、湿度管理や防塵(じん)、虫よけなど作り手が考えている以上の広い用途でシートシャッターが必要とされていることを知る事ができた」と振り返る小松社長。

これまでに門番は三万二千五百台が生産され、現在の年間生産台数五千四百台は国内の生産シェアの約五五%と過半数を占める。平成四年には韓国のメーカーに製造技術、設計図を無償提供するなど海を隔てた友好的な企業ネットワークづくりを展開中だ。

同社は松江市と玉湯町にまたがる松江湖南テクノパークへの進出を決め、七月の着工

を目指している。約一萬千四百平方メートルの敷地に三階建て延べ六千平方メートルの製造工場と、七階建て延べ八千八百平方メートルの研究棟を建設する計画だ。新社屋と同時に、新

「中海・宍道湖を抱える地域で生まれた企業として、松江を閉鎖水域の研究のメッカとしたい。世界の人の交流を通して事業を展開していく」と小松社長は夢を膨らませる。

本社所在地	島根県八雲村
創業者	昭和48年 小松昭夫社長
従業員数	80人
売上高	32億円(6年度見込み)
業種	自動制御盤の製造、販売。計装システムの設計、施工など

△会社概要▽